九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[03_01]九州大学大型計算機センター広報 : 3(1)

https://doi.org/10.15017/1467966

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 3 (1), pp.1-55, 1970-02-24. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

能を活用する方法などといったごく実際的なことについてのわかりやすいテキストを作ることなどを考えてみてはどうだろうか。

上に述べたのと同じことはライブラリーの拡充についても言えるであろう。今でも富士通から供与されたものがあるにはあるが、充分なマニュアルもテスト結果もなく、我々もソースプログラムをチェックしたり、必要に応じては改造を加えたりして使用している。逆に言えば、このような利用者側の努力が有効に整理され蓄積されていくならば、現在の不充分なライブラリーも徐々に整備されていくであろうし、また強力なライブラリーを作り上げるためにはこのような協力関係が不可欠であろう。

以上のような利用者対センターの関係を作り上げて行くためには、現在のプログラム相談を窓口にするだけの方法では決定的に不充分であり、本センター開設に伴なって、より広く利用者をとり入れて行くような新らしい運営技術が生まれてくることを望むものである。

（九州大学　工学部　航空科）

苦　　言

深　野　　徹

昨年12月上旬以下のような経験をした。

ある時系列現象のいろいろな統計的性質を求めるのに、入力データとして実験値を用いた場合にはうまく計算していたが、その同じサブルーチンを用いて、模型解析によって計算機で作り出した同様のデータについて計算をやったところ、ところどころにすごく大きな値が入って書式仕様指定ミスとなって返却された。おかしいのでプログラム相談をお願いしたら、センターのほうで検討するということになった。2、3日して連絡をとってみると、「倍長計算でやったらうまくゆくので、何か理論ミスがあるのではないか」という返事をいただいた。そこで、かなり精力的にプログラムを検討しなおしたがあやしいところが見付からず、ハードがおかしいのではないかと考え、ひき続きセンターに検討していただいた。ところが相当たってもその結果の連絡がない。いったんおまかせしたものをとは思いながら、数日後にせまった研究会で発表の資料にしたいと思っていたところから、センターに様子を聞いてみると「あれはハードに欠陥があったがもうすでになおっているはずだ」という返事である。そこでやっと私の手元に戻ってきたわけである。以上のような経過であったが、この中からいくつかの問題を取り上げてみたい。

① 負担金の問題

負担金の計算が現在1分単位で切り上げ方式でなされているが、これをせめて10秒単位にしてほしい。聞くところによると同じFACOM230－60を使用している京都大学は秒単位の計算をやっているとのことですが。（例として私の9月から11月までの負担金は、1分単位で計算すると1,9200

円のものが、30秒単位で13,800円、10秒単位で10,630円さらに1秒単位では9,900円となる)つまらぬ誤りを犯すのは人間である以上仕方のないことであるということを認めれば、プログラムをたいして検討もしないで安易に計算機にかけることはもちろん慎むべきであるが、もう少し気軽にデバックランができるようにならないと、人力の消耗がもったいないと考える。以前利用者懇談会で、負担金はできるだけ高くしてほしいというような要望があっていたがこれにはまったく反対である。

② 相当たっても返却されなかったことに関して。

センターからすればユーザの1ジョブは数百分の1の価値しかないであろうが、我々からすれば1ジョブそのものが全体である。センターにとって不要になったジョブもユーザはできるだけ早くその結果を知りたいと思っているので、そのような処理をされることを期待する。

③ ハードがおかしかったことに関して。

この場合たまたま非常に大きな数値となり一見してわかったからよかったものの、あまりかわらないような数値に変換されるようなことになっていたら、ユーザは大へん迷惑することになろう。そこで毎日の始業前の検討はどのようなことをされているのかをうかがいたい。

これらの他に

④ Bジョブの制限時間を10分程度にしてほしい。

(九州大学　工学部　機械科)

センターより

桜井氏と深野氏のご意見の内容は、多くの利用者が切実あるいは漠然とお感じになっていることがらだと思います。共同利用センターは利用者のものであり、センターの運営には利用者のご協力が不可欠であり、今後も有益なご意見を卒直かつ積極的にお寄せくださるようお願いします。

桜井氏がご指摘のごとく、大学における計算センターでは、単に計算サービスだけでなく、システムのレベルアップ、利用者のプログラミング教育、ライブラリプログラムの整備、さらには次代の計算機利用に関する研究等、やるべきことが山積していて、しかもこれらのことはセンターのみで行ない得るものではなく、利用者一人一人のご協力のもとに可能になるものと考えられます。現在、センターの運営は技術面も財政面も運営委員会およびその下部の専門委員会である業務委員会、広報教育委員会、ライブラリ委員会の審議の下に行なわれています。これらの委員会は主として利用者から構成されていますので、利用者の建設的ご意見により委員会活動を今後一層盛り上げていただくことが、センター運営の向上発展に肝要であろうと考えております。また、経験豊かな利用者の方々にはプログラム指導員、ライブラリ開発者として今後もご協力をお願いしたいと思います。これらの仕事を通